

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490100019		
法人名	株式会社 SHIN EI		
事業所名	かすみそうの家		
所在地	桑名市森忠1728-4		
自己評価作成日	平成26年1月22日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2013_022_kihon=true&JigvosvoCd=2490100019-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 26 年 2 月 4 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家人さんが自分らしく安心して過ごしていけるホーム作りを大切にしています。職員が日頃、自分だったらどうするだろうと自分に置き換えて、家人さんの思い等に十分に耳を傾けてケアにあたっている。また、家人さんと一緒に家事を行えるような働きかけ、楽しく毎日送れるようなホーム自体が家人さんの家というホーム作りをめざしている。看板を掲げず、家族の方が出入りしやすい環境作りも心がけている。年間行事では、各担当を決め、企画し家人さんと準備したりしています。特に誕生日は「その人の希望を叶えよう」をコンセプトに独自の誕生日を行って皆でお祝いをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の「笑顔が大切」ということを利用者・職員とも自然と身につけており、笑顔の多い明るい朗らかな事業所である。建物も木造でぬくもり感があり、内部も広くて明るくゆったり感がある。壁には職員や利用者の手づくりの作品も多数飾られており、温かさを感じる。既に7人の看取りをされているが、最近看取られた2人の遺骨と写真を事務所内に置き、今でもこの事業所の利用者(家人さん)として大切にされており、利用者職員に信頼感があり、強い「絆」が生まれているのを感じる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念の「みんなの笑顔はみんなの命のお薬です」を職員一同大切に、日常生活において家人さんの意思を尊重し、不安要素なく笑顔で平穩に過ごしていただけるようなケアを大切にしている。	日常生活の中で「笑顔」は大切なものと位置づけ、日々のケアの中で注意しあったり、新人教育の中でも挨拶の次に笑顔になるように研修している。家族との交流の場でも話しており、笑顔の多い事業所になってきている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会が遠いことや、近所は店舗が多い中、近所の喫茶店に行ったり、また幼稚園の交流の場を持つ機会を作っている。	幹線道路に面した店舗の多い地域ではあるが、地域のボランティアの訪問や幼稚園児との交流があるし、小学校との連携も検討中である。近くの馴染みの喫茶店へ出かけることも多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見守りのボランティアの方や以前入居されていた家人さんの家族のボランティアを受け入れる際に認知症について理解など話し合いの場を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を前年度は月3回であったが、今年度より月に2回開催し、入退居状況や行事に関することなどを報告し、出席者と話し、意見・情報など頂いている。	2ヶ月に1回の開催を続けており、行政や包括から各種情報をいただき、サービス・運営に活かしている。出席できる家族が限られてきているのが悩みである。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	同一法人の他事業所で居宅介護支援事業等をしていることもあり、日々、市町と行き来する機会がある。また、介護保険の認定申請時や運営推進会議の開催要項などの書類を直接市役所に届けるなどして普段から市町とかかわりを持つように努めている。	法人施設長が市より認知症サポーター養成講座を依頼されたり、管理者自身が市役所に訪問する機会が多く、市職員との連携は出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング、ケース会議等で身体拘束をしないケアについて、勉強会を行い、スタッフが理解していくようにし取り組んでいる。	月2回の会議を利用し、マニュアルや新聞記事を例題にして「それがなぜ拘束になるか、理由を考えながら」勉強会をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止に関しても、6の項目同様にミーティングやケース会議等で勉強会を行い、スタッフ全員理解し、ケアに反映できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、地域福祉権利擁護事業を活用していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に面接やホーム見学を行いながら十分な説明を行い、入居予定者や家族が理解していただいた上で契約を行っている。又、解約に関しても入居者や家族に相談し納得した上でやっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見や不満、苦情の訴え等に日頃から職員が耳を傾け、その都度申し送りやミーティング等で話し合い検討をしている。又、ご家族の方の来所時や行事等に話をしたりしながら、話しやすい環境作りをしており、要望や意見を聞いている。	「話し聞いて」と声をかけてくる利用者さんもあり、日常生活の中で話を聞く姿勢をとっているし、家族とは、来訪時や催し物を利用し要望を聞いたり、アンケートで答えてもらったりしている。最近ではメールでの情報交換も多くなってきている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員の個々の意見を大切にしているよう機会を設けている。又、他の職員の意見も共有していけるようミーティングやケース会議等を活用し話し合いを行っている。	月2回の会議を利用し意見や提案をうけているし、日常の仕事の中でも時間を作って面談をしている。職員の提案は多く、利用者を楽しませる事をする男性チームの「やろう会」や手芸クラブも生まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員に年1回7月に自己評価を行い、4月に面談をし契約の更新を行っている。又、H23年から奨励賞などを行い、総括からの評価や職員からの評価によって日々のケアのモチベーションを高めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々にあった研修に参加できる機会を作っている。また、ミーティング等で勉強会を定期的に開催し、職員のステップアップとなるような教育を取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年数回、他のホームとの相互訪問や研修を行い、交流する機会を作り、様々な意見を取り入れられる機会を設け、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初に面談等を行い、本人が困っていることや不安なこと等を聞く機会を設け、受け止めていけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居してから1カ月以内は頻繁に家人さんの様子を伝えていけるよう努め、家族からの要望等も聞いていけるような場を設け、それ以後も家族の方が話しやすい環境を構築していけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人・家族の方の状況を把握し、今必要とされる支援を考え、ホーム外の社会(地域)資源も活用したサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家人さんの気持ちを探りつつ、普段から洗濯物をたたんだり、お米研ぎ、盛り付けなどの家事仕事や洗い物等を家人さんと行える時間を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方に本人の生活歴や知る限りの本人の思い等、情報を収集しつつ、家族の意向も踏まえながら本人が住みよい環境が作れるように家族と共に本人を支えていける関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある(思い出のある)場所・地域に、職員と一緒に外出したりして関係継続に努めていくと共に、ホームへ来所して下さる知人の方との時間をゆっくりと取っていただけるようにしている。	入居前に付き合っていた友人が様子を見に来てくれることもあるし、以前から通っていた美容院や買い物に職員と一緒に出かけることもある。また法人の3つの事業所の交流会があり、デイサービス時代の友人と逢う機会づくりもしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家人さん同士の関係を考慮し座席配置を決めている。又、レクリエーション等、皆で楽しく過ごせる時間を考えたりしながら、家人さん同士の関わりを深めていけるような環境を作り努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方にも引き続き関係を断ち切らないよう何かあれば支援することを家族の方に伝えている。又、退所後にも家族の方に連絡を取ったり、面会に行ったりもしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分だったらどうかと考え、日頃から関わりを大切にし家人さんの言葉等に耳を傾け、家人さんの意思や要望を尊重していけるケアに努めている。	利用者一人ひとりの要望や希望を大切に聞き取っており、毎年「その人を知る」というアセスメントシートを見直し、職員全員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に作成するフェイスシート等を参考にしたり、面会時に家族にも話を伺って少しでも多く本人の情報を把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌等の記録に職員皆が日々の様子(発言や行動)を把握していけるよう記入している。又、当日の日誌だけでなく数日前の日誌も閲覧できるようにしてある。口頭での情報共有も大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書更新前に担当職員が「その人を知る」というシートに現在のADLを記入し、それを基にケース会議で皆で話し合っている。又、家族の方にも更新前に意向を伺える機会を設けていけるようにしている。	担当職員が利用者一人ひとりの個別日誌を参考に、アセスメントシート「その人を知る」に出来ること・出来ないことや要望・希望を記入し、ケース会議で全員で検討し、介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が家人さんの個別日誌(介護計画書の項目を反映している)を記入し、申し送り等で共有しながら日々のケアにあたっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族、家人さんの状況の変化や要望に沿えるように、その都度サービス内容の変更を行っている。又、日々の申し送りをはじめミーティング等で職員間で話し合い、より良い方法・環境を考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	見守りボランティアの方や地域のボランティアの方が、来て下さることがある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の方の希望を大切に、かかりつけ医での受診をするように努めている。通院や受診は家族と話し合い、職員も同行している。体調の状態によっては、往診で診て頂くようにしている。	利用者全員が、事業所の協力医に変更している。通院は職員が同伴し、「受診記録」に詳細記入することにより、職員同士の情報の共有や家族への報告をしている。現在の協力医は通院或いは緊急時の往診だけであるが、定期的な往診を依頼中である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護職員と共に、毎日家人さん一人ひとりのバイタルサインをチェックし、本人と会話したり、様子観察しながら、健康状態を把握するように努めている。体調不良などあれば、随時病院受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、定期的に本人に面会に行き、病院の相談員や看護師とコミュニケーションをとり、病院と連携を図りながら今後のことを相談したりして関係作りを努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に本人・家族と重度化した場合や終末期のあり方について、その時の要望や事業所でできること、できないこと等を指針をもとに話し合っている。状態に変化があれば、本人・家族の意向を聞き、主治医に意向を伝え、支援方針を相談し検討している。	既に7人の看取り経験もあり、看取り指針はじめ終末期の本人の心理、家族や職員の心理状態等についての資料も出来ており、職員も勉強している。利用者本人はじめ家族・職員の関係も良好で、お二人の遺骨が職員事務所に祭られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティングや勉強会を開いて緊急時の対応の話をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、家人さん・職員がスムーズに避難できるように努めている。	消防署の立会いはないが、火災発生から避難訓練を年2回(うち1回は夜間想定)行っている。	職員だけでなく、消防署立会いの下に、より実際に近い訓練をお願いしたい。また地震は火災とは違った動きが必要になるので、地震発生時の訓練もお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心の配慮というマニュアルを作成し、家人さん一人一人を尊重し接している。又、日頃から職員同士でも羞恥心の配慮を意識し指摘したり、年2~3回の合同の勉強会時に理念やケアの関しての振り返りを行っている。	「羞恥心に配慮」というマニュアルを作り、勉強している。洗濯物の上着は利用者がたたむが、下着は職員がするようにしているし、トイレの声かけも、その人にだけわかる言葉や、歩きながら「さりげなく」している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から家人さんとのコミュニケーションを大切にしながら、思いや訴えが表現しやすい環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活ではあるも家人さんのその日の様子(体調や表情等)に十分配慮し、その方に適した生活リズム(ペース等)を大切に過ごしていただけるよう日々のケアにあたっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日着る服を選んでいただいたり、その人らしいおしゃれや身だしなみを支援するように努めている。月1回美容院に来てもらい、希望を聞いて、カット、パーマ、カラーなどをしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	レクとして家人さんとお菓子作りをしたり、毎週1回、ワクワクランチというオリジナルメニュー(家人さんと考えている)を職員と家人さんと一緒に食卓を囲み食べている。又、日頃から盛り付け・下膳等をしていただけるよう働きかけている	日常のメニューと食材は業者に委託しており、調理は職員がしている。調査当日は誕生会であり、誕生日の方の食べたいもの(ちらし寿司)を職員・利用者みんなでいただいた。毎週1回みんなで考えて作るメニューの日もあり、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックと水分量のチェックを行っている。特に食事量の少ない家人さんや水分摂取の少ない家人さんに対しては別紙を作り、細かく把握できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを促し、介助の必要な家人さんに対しては見守り、付き添い介助等行い、口腔ケア後はチェック表に記入するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	羞恥心を考慮しながら声かけをし、本人の意思を尊重しながら必要時にトイレ誘導して排泄を促すよう支援している。	布パンツで自立の方は少なく、ほとんどの方が排泄チェック表を基に支援している。特に尿意や便意のある方には、羞恥心を考慮し声掛けしないで本人の仕草や動作をみながらトイレ誘導する等、排泄の自立に向け努力している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の家人さんに合わせて、センナ茶を飲用し、排便コントロールを図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に合わせて入浴を楽しめるようにしている。入浴は必ず職員が一人付き添う為、家人さんとゆっくり関わられる場でもある。拒否される場合は無理強いせず、足浴や清拭で対応するようにしている。	希望すれば毎日でも入れるが、ほとんどの方が週3～4回である。入浴拒否の方もいるが、気の合いそうな職員と一緒に入るとか、入浴剤を工夫したりしている。セラミックヒーターの足湯もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	家人さんの個々の状況(夜間不眠・下肢の浮腫・体調不良等)に考慮しながら休息や下肢挙上をしていただく対応をしている。又、本人が「休みたい」と希望された際も休息していただき、他のスタッフにも口頭で伝えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	リーダーにより服薬介助をしている。服薬の変更や重要な薬やいつもと違う服用方法などあれば、申し送りを行い、職員にわかるようにしている。リーダー書を使用し、症状の変化等話し合う機会を設けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる限り家人さんが主役になって、玄関やホール、居室掃除や食器洗いなどし、個々での生きがいや役割を見い出せるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に行ったり、喫茶店に行ったりまた季節により花見やコスモス畑を見に行ったりと外出できるよう支援している。	日常的には近隣の散歩や、近くの喫茶店や買い物に出かけている。季節によっては花見に出かけたり、映画会や演奏会、演劇を見に行ったりと出かけることも多い。現在少人数での行動になっており、みんなで一緒に出かけることを検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関しては、事務所で預かりになっているが、家人さんによっては一部自分で管理している方もいる。買物の際は自分で支払うこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望された時に、電話をつなげたり、職員から家族の方へ連絡したりすることもある。手紙や年賀状を出す家人さんもいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下に天窓があり日光が入りやすいようにしてある。また、家人さんの作品や写真などを貼り出し、居心地のよい雰囲気作りに努めている。ホールにソファや足癒を置き、ゆったり過ごせるよう配慮している。	ホールは明るく、2ユニットが自由に行き来できるようになっているため、広くゆったり感がある。ウッドデッキもあり日向ぼっこもできる。日当たりの良い廊下の端には、ソファやテーブルがありちよつと休憩するには良い場所である。壁には利用者の作品や行事の写真が、楽しい雰囲気飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にも机や椅子を設置したり、ホールにソファを置いたりして、家族の方との面会の場に活用したり、ひとり又は気の合った家人さん同士で自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や衣類等持ち込みも可能であり、本人の意向に合わせ、住み良い環境を作るようにしている。	ベットに大きなクローゼット、洗面台が備え付けられており、各人それぞれがタンスやテーブル、椅子など持ち込んでいるが、いずれも整理整頓されている。また、壁には誕生日にプレゼントされた大きな手づくりの手芸作品や写真が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて、手すりを設置したり、ベットの配置を変えたりして自立した生活が送れる環境作りに努めている。		